

DEBUT 首長

大阪府茨木市長 木本 保平氏



きもと・やすひら 1944年、大阪府茨木市生まれ。67年関西大文学部新聞学科卒。71年から茨木市議会議員を11期務め、議長3回。2011年の大阪府議選で地域政党「大阪維新の会」候補を支援し自民党から離党。4月の茨木市長選で維新の会とみんなの党の支部推薦を受けて初当選。68歳。

企業跡地など開発計画相次ぐ 外部から顧問、改革議論活発に

大阪府茨木市 府北部の北摂地域で大阪市と京都市の間にありベッドタウン的性格を持つ。2001年、特例市に移行。丘陵部でニュータウン「彩都」開発が進む。人口27万6000人。

——開発計画が目白押しだが。

1970年の大阪万博以来、JRや阪急の駅周辺はほとんど変化がなかったが、今後は様々な開発計画を起爆剤に魅力ある都市にしていきたい。サッポロビールの工場跡地には立命館大学が15年をメドに新キャンパスを開発する。フジテックの工場跡地にはJR西日本が総持寺駅（仮称）を18年に設ける予定だ。さらに東芝が工場跡地でスマートコミュニティー（環境配慮型都市）を建設するので、産官学でいいアイデアを出したい。

市北部の山間部では過疎が進んできたが、新名神高速道路の建設が進み16年度にはインターチェンジもできる計画だ。都市再生機構（UR）が進める「彩都」開発のうち企業向けで市内にある中部地区などの活性

化につながるだろう。

——マニフェストでは公務員改革を第1に打ち出した。

働かない職員を懲戒処分にするというのではなく、がんばる人を引っ張り上げる改革をしたい。職員基本条例をどうするか検討している。市の財政状況や市内中小企業との比較から、6月議会では14年3月までの期限付きで職員給与カットを提案し幹部職員は10%削減する。一般職の削減額は通年で6億6000万円に達する。5月には市長の給与3割カットなど特別職も削減済みだ。

文教、福祉など分野別に10人前後の顧問を外から起用したい。市議時代に考えていたより職員はずっと優秀だが、専門家を顧問にして議論を活発にするのが狙いだ。マニフェストに示した多くの項目を6月補正予算案に盛り込んでおり、その他も検証のうえ実行に移していく。

——教育改革にも熱心だ。

教育委員会は独立しているが、私や副市長らも入って議論できる場を作れないか検討している。校長に自由に使える予算の要求

権も与えたい。32ある小学校区ごとに地域協議会を作り、予算を渡して特色ある地域づくりを進めてもらうことも考えている。来年度は準備の整った10地域程度で始めたい。

——橋下徹大阪市長らが進める「大阪都構想」にはどのようにかわっていくのか。

昨年の大阪府議選では、私は大阪都構想が良いと考えて「大阪維新の会」の府議を応援した。その結果、自民党から離党勧告を受け、昨年8月に離党した。大阪府と大阪市では重複している部分が多く、大阪都は必要だと思う。府下の市も予算面で関係してくるので行方を注視している。しかし茨木市は人口が30万人近くあり、一定のまとまりがあるので、このままの形で発展していくのがいいと考えている。基本的には橋下市長の考えに賛成だが、意見が違う部分もある。

（聞き手は大阪地方部編集委員

宮内 禎一）